

令和4年度 編入学（一般・推薦）

看護学部
看護学 (120分)

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、3ページあります。なお、下書き用紙が1枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず黒鉛筆（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

1 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(15点)

問1 標準予防策(スタンダードプリコーション)について述べなさい。

問2 点滴静脈内注射 500 ml /6時間の指示があった。20滴で1 mlの輸液セットを使用した場合の1分間の滴下数と計算式を答えなさい。ただし、小数点以下第1位は四捨五入すること。

2 次の事例を読み、あとの問いに答えなさい。(25点)

Aさんは53歳の男性で、会社員である。デスクワークが多い仕事をしている。45歳の時、会社の健康診断で要精密検査となり、病院を受診し、2型糖尿病と診断された。食事療法と運動療法から開始となったが、仕事が忙しく食事内容を守れず、昼と夜の食事となっており、脂質が多い食事を夜21時以降に摂ることが多かった。運動もできていなかった。血糖コントロールが不良のため、経口血糖降下薬の内服が開始されて現在も継続している。1年前から微量アルブミン尿が出現するようになった。外来受診時の検査では身長165cm、体重73kg、収縮期血圧135mmHg、拡張期血圧85mmHg、空腹時血糖値128mg/dl、HbA1c 6.7%、微量アルブミン尿290mg/gCr、eGFR 50ml/分/1.73m²であった。

問1 持続して微量アルブミン尿が認められている場合、最も考えられる合併症を1つ述べたうえでその合併症について説明しなさい。

問2 Aさんの現在の健康状態をアセスメントして、健康管理に必要な食事指導を簡潔に述べなさい。

3 次の文章は、訪問看護制度とサービスの提供について述べたものである。文章中の①～⑩に入る適切な語句や数値を記入しなさい。(30点)

介護保険制度による訪問看護サービスを利用するためには、保険者である(①)へ要介護認定を申請しなければならない。要介護認定結果が「非該当」の場合は、(②)歳以上(③)歳未満の医療保険加入者(第2号被保険者)で老化に起因する16特定疾病に罹患している療養者であっても、介護保険による訪問看護を利用することはできない。

「特別訪問看護指示書」は急性増悪や終末期などの場合に月(④)回交付でき、有効期限は指示日から最長(⑤)日までである。尚、気管カニューレ使用の患者と真皮を超える褥瘡の患者には月(⑥)回まで交付できる。「特別訪問看護指示書」による訪問看護は、(⑦)が適用される。

指定訪問看護ステーションの人員に関する基準では、看護職員のほか(⑧)、(⑨)、(⑩)を実情に応じて適当数配置することができる。

4 次の事例を読み、あとの問いに答えなさい。(30点)

Aさんは40歳の女性である。10年前にうつ病と診断され、定期的に外来受診を行っていた。外来では選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)と睡眠薬が処方されていたが、気分の落ち込みが激しい時や眠れないときに服用するなど、自分で調整しながら服用していた。最近、仕事の部署が異動になり、周囲の人間関係がうまくいかず、悩んでいた。夫は病気に対して理解があり、家事にも協力的であった。ある日、夫が仕事から帰宅すると、台所で意識を失っているAさんを発見した。テーブルの上には処方されていた睡眠薬の空き袋が大量にあった。救急搬送後、救急外来で処置を行ったところ、身体的に異常はなかったことから、精神科病院に入院となった。

問1 選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)の代表的な副作用について2つ述べなさい。

問2 入院後、危険物を所持していないことを確認し、一般病室に案内した。看護師が病棟のオリエンテーションを行っている際、Aさんは看護師の説明に小さな声で受け答えするものの、表情は暗く、目を伏しがちであった。この時、看護師はどのように声をかけるのが適切か述べなさい。

問3 入院から2か月が経過し、症状は軽快した。Aさんの入院前の状況を踏まえた上で、退院に向けたAさんに対する看護師の適切な対応を述べなさい。

5 代謝性アシドーシスの原因を2つ述べなさい。(10点)

6 次の事例を読み、あとの問いに答えなさい。(30点)

Aさんは55歳の女性で、会社員、一人暮らしである。自宅で突然激しい頭痛と悪心が出現し、自力で救急車を要請し、搬送された。ジャパン・コマ・スケール(JCS I-2)で頭痛を訴えており、瞳孔径は両側3.0mm、上下肢の麻痺はない。Aさんは頭部CTと脳血管造影により「脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血」と診断され、HCU(High Care Unit)に入室した。入室時のバイタルサインは、体温36.6℃、呼吸数23回/分、脈拍92回/分、血圧154/98mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度(SpO₂)96%であった。治療方針として、開頭クリッピング術が予定された。

問1 意識レベルJCS I-2とはどういう状態か述べなさい。

問2 Aさんの脳動脈瘤が発症後24時間以内に再破裂した場合、起こり得る頭蓋内圧亢進症状の急性症状を具体的に5つ述べなさい。

問3 脳動脈瘤再破裂を予防するためのAさん本人に対する術前看護について具体的に述べなさい。

7 次の文章は老年期の視覚と聴覚の特徴について述べたものである。文章中の①～⑤に入る適切な語句を記入しなさい。(15点)

- ・老視とは(①)の弾力性低下と(②)の萎縮によってピント調節力が低下するために、近くのものが見えにくくなる状態をいう。
- ・瞳孔を調節する(③)の弾力性低下により明暗順応の遅延が生じる。
- ・高齢者は内耳にある蝸牛の(④)が減少することで(⑤)性の難聴が生じ、高音域の音が聞き取りにくくなる。

8 次の文章は産褥期の退行性変化、進行性変化について説明したものである。文章中の①～⑤に入る適切な語句を記入しなさい。(15点)

- ・産褥期におこる子宮の収縮不全を(①)という。
- ・悪露に悪臭を伴う場合には、(②)炎を考慮する必要がある。
- ・乳児の吸吮刺激により、下垂体後葉から(③)が放出され、細乳管の筋上皮細胞が収縮し、乳汁が分泌される。
- ・乳房痛の原因となる(④)乳腺炎は、(⑤)乳腺炎に比べて発熱・悪寒などの症状は軽く、発症時期も産褥1週間以内が多い。

9 次の文章は子どもの発達について述べたものである。文章中の①～⑩に入る適切な語句や数値を記入しなさい。(30点)

- ・生後6カ月児の腎臓の尿濃縮力は成人の約(①)である。腎機能は(②)歳頃には成人の機能に達する。夜尿は(③)歳までは様子を見てよい。
- ・胸腺の発育のピークは、(④)歳頃である。
- ・体液性免疫では、出生時は胎盤を通過した母体由来の(⑤)が高値である。(⑥)が高値の場合には、胎内感染が疑われる。
- ・新生児の末梢血の赤血球数、血色素量は高値だが、その後は減少し、生後(⑦)カ月で最低となる。
- ・新生児期の1日、体重1kgあたりの必要水分量は成人の(⑧)倍である。
- ・子どもの首が完全に座るのは(⑨)カ月後であり、お座りができるのは(⑩)カ月後である。